

---

# 帰省

朝霧幸太

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

帰省

### 【Nコード】

N8315P

### 【作者名】

朝霧幸太

### 【あらすじ】

ショートストーリーなので、あらすじは記しません。

「ねえ、ママ。サンタクロースはね。ほんとにパパなんだって」

「えっ？ 誰が、そんなこと言ったの？」

その会話は、僕の背後から聞こえた。

その親子連れは、同じアパートの住人だった。と言っても廊下で顔を合わせた時に、通りいっぺんの挨拶を交わすだけの間柄だが。

「しろうた、だよ」

「保育園の？」

「うん……。サンタさんじゃなくてパパがプレゼントをくれるんだって。ねえ、ママ。うちはパパがいらないからプレゼントはもらえないの？」

母親は返答に詰まっている。

僕は駅前のバス停に、その親子連れと偶然に並んでいた。クリスマスは二日後だ。

「ねえ、ママ」

男の子が母親の袖を引いている。

「タツくん、サンタさんはね……」

僕は文庫本を閉じた。

「あのね、その子のお父さんは、サンタクロースの当番だったんだと思うよ。サンタは一人じゃなくて、たくさん居るんだよ」

僕は、つい男の子に話しかけてしまった。

「えっ？ そうだったの？」

彼は、きょとんとした目で僕を見上げている。

「うん。タツくんは、何をお願いしたの？」

「アンパンマンのパソコン！」

彼は元気よく答えた。

「そうか。じゃあタツくんの当番のサンタさんは、もう用意してると思うよ。25日の朝、タツくんのお家のドアの前を見てごらん」

「あ、あの……」

母親が何か言いかけたが、僕は、それを遮って告げた。

「こんばんは。同じ階の滝田です。だいじょうぶです！ サンタは居ます。サンタクロースは小さい子の夢を壊しません」

帰省の為の交通費を取ってある。これを充てれば、なんとかなるだろう。

僕は即座に携帯を開き、お袋へ連絡を入れた。

「あつ、母さん？　今回は、こっちで年を越そうと思うんだ。……  
えっ？　いや、バイトが面白くなっちゃってさ。それに年末年始は  
待遇もいいんだ。正月明けには帰るから」

了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8315p/>

---

帰省

2011年1月3日19時23分発行